

第12期 松戸市緑推進委員会
第4回 委員会

1. 日時 令和5年3月29日(水) 10:00~11:30

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛・平岡 孝・小谷幸司・河合直志・石川静枝(オンライン)・藤田博美・
藤田 隆・上野義介(オンライン)・梶谷有三

○松戸市

齋藤博紀 (街づくり部審議監)
布施 優 (公園緑地課課長)
白石義之 (21世紀の森と広場管理事務所所長)
高橋花織 (公園緑地課主任)

○兼事務局(みどりと花の課)

三末容央(課長)・木村高德(補佐)・木原 茂(補佐)・岩田 昇(主査)

○松戸みどりと花の基金

青柳洋一 理事長
田辺久人 事務局長

○傍聴 2名

事務局より本委員会の成立について、委員人12名中10名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

2 議事

- 1) 議事要録の確認
- 2) 第12期緑推進委員会テーマについて
- 3) みどりのサロン部会からの報告
- 4) 緑と花のフェスティバル2023の参加について
- 5) 第11回オープンフォレスト in 松戸の後援について
- 6) その他

4連絡事項

5閉会

事務局

第4回緑推進委員会の開催をお願いいたします。

参加方法の内訳は、対面参加8名とオンライン参加2名で、石川委員、上野委員についてはオンラインで参加しております。

また、委員会の議事概要および出席者を記した議事要録につきましては、事務局で取りまとめ後日、

委員会の皆様にご確認いただきますのでよろしくお願いいたします。

議事録の公開は、情報公開担当室を通じて公開するとともに、松戸市のホームページにおいても公開させていただいております。

それでは議事に入っていただきたいと思います。

柳井会長、よろしくお願いいたします。

会長

第4回緑推進委員会開催します。

傍聴について、事務局の報告をお願いします。

事務局

本日2名より傍聴の申し出がありました。

松戸市緑推進委員会の組織及び運営に関する規則の規定により許可したいと思いますが、いかがでしょうか。

会長

よろしいでしょうか。

——承認——

会長

傍聴を許可します。

議事 1) 議事要録の確認について

会長

事前配布した議事要録に意見・指摘事項はないか。なければこれを以て議事要録としてよいか。

——承認——

3) みどりのサロン部会からの報告

事務局

まずお手元の資料を確認させていただきます。

ちょっと本日資料が多くなっております。

資料1として、前回議事まとめ

資料2として、松戸市イベント一覧

資料3として、松戸市SNS、キャラクター一覧

資料4として、みらいフェスタのチラシとその企画書

資料5として、緑と花のフェスティバル2023について、

資料6として、オープンフォレスト in 松戸のチラシ

資料7として、先日行いました、ちば里山アワードのつなごうよう森と地域と子どもたちのチラシと報告となっております。

以上が本日の配付資料ですが、不足のある方がいらっしゃいましたらおっしゃってください。

それでは、本来ならば、議事2)についてご説明するところですが、先に先日25日土曜日にサロン部会で、参加する予定であったみらいフェスタの報告と26日の日曜日に開催したちば里山アワード大賞受賞記念講演会の報告を先に行いたいと思っております。

受賞記念講演会については、今日の議論のとても参考になると思います。

よろしく申し上げます。

会長

順序、内容を入れ替えるとのことですが、よろしいでしょうか。

———了承———

会長

それでは、引き続き申し上げます。

事務局

ありがとうございます。それではまず、みらいフェスタの報告についてになります。

資料4を併せてご覧ください。

こちらは今回、里やま応援団から4人の応援をいただいて、松戸中央公園で出店する予定でしたが、あいにく雨が強くて中止にさせていただいております。

出店の内容につきましては、資料4の2枚目に企画書を添付しています。昨年は花壇の植替えが大変好評だったことから、今年は植木鉢を用意しまして、思い思いの絵を参加者に書いていただき、そこに用意した花を植え替えてもらうような体験や、ブンブンゴマを木工で作る体験、竹ポックリ体験など、参加者が土、花、木材に直接触れる企画を準備しておりましたが、残念ながら中止になってしまいました。

引き続き、ちば里山アワード受賞記念講演会の報告についてさせていただきます。

事務局

先週末の3月26日、日曜日にちば里山アワード大賞受賞記念ということで、講演会の方を実施いたしました。

資料7をご覧ください。

白黒で申し訳ないですが、これが当日のチラシとなっております。

この記念講演会は、ちば里山アワードの受賞に合わせ、里山大賞を受賞した松戸市の里やま活動の内容と成果を広報し、森の利活用の可能性や効果、活動の意義について広く市民にPRしたものです。

また、森と子供たちの繋がりから生まれる効果や意義を、子育て支援関係者と共有し、今後の里やま活動の可能性を探るために実施しました。

内容につきましては、自然と子供をつなぐインタープリターの村松亜希子先生を講師に迎えまして、みどりと触れ合う子供たちの姿や、幼少期の自然体験から生まれるもの等について、幼・保育園の自然教育の事例を交えながら講演をいただきまして、その講演から見つけたもの、気づいたことについて座談会を通じて、参加者の皆さんと共有させていただきました。

参加者全部でスタッフも含めて81名と聞いております。中には、学校の先生ですとか保育士さんとか、そういった教育の関係者が多数いらっしゃっておりました。

資料の一番最後のページに、その時出席いただいた方々の声として、箇条書きで書いてあります。村松さんの声、登壇者の声、一般参加者の声となりますので、1分程度目を通していただけますでしょうか。

こちらの催しに会長及び委員にもご出席いただいておりますので、補足をお願いしたいと思っております。

よろしく願いいたします。

委員

会長には登壇いただきまして、ありがとうございます。村松さんのお話の中で大きかったのは、子供の観察力ってどうなんだろうというのを、もう一度考えさせるという点で貴重なお話でした。平成29年に保育指針と幼稚園教育要領が改訂されて、自然を大切に作る心が生命尊重に繋がるといような項目が新しく加わって、生き物のことを教えるよりも、探求していくことが大切で今後は重要になっていくと考えている視点が興味深く、総合学習に繋がると思いました。

また、教師をやっている、中学生・高校生がどういう視点を持っているのかということを考えて教えてみたら少し変わってきたという話もあつたりしたので、こうした考え方が重要だと感じました。

1年半前に松戸に引っ越してきた小さい子供がいるお母さんがすごく感心して、こんなことができるんだったらってというようなところまで考えてもらえたことが印象的でした。

会長

まずはたくさん反響をいただいたと感じている。最初村松さんに話をしてもらって、その後に休憩時間があったので、聞きたいこととか自分の思いを質問シートに書いてもらいました。かなり肯定的というか、気づかされたような観点でのシートも多かったですし、具体的な質問もたくさんありました。

会場とうまくやりとりできるか不安なところがありましたが、たくさんいただいた質問が内容的にも濃かったので、それを基にしながら、羽根さんとか加賀さんにお話をふりながら、村松先生に聞きながら充実した座談会になったかなと思っています。

ポイントは体験、リアルな体験を大切にすることはどうかという話がまず1点です。

最近の子供はスマホとか使いますので、知識は頭に入ってくる、それって違うよって言われると否定されるわけですけど、実際に体験してや自分はこれを見たとか、自分はこれができた、そういった体験が大事であるというお話がありました。

あとはやっぱり、僕らもそうですが、すぐ教えてしまう。そうではなくて自分が子供の力を引き出す手助けをどうやるか。やはり彼女の話の話を聞いていると、とても子供たちのことを観察してま

す。とてもよく見ているというのが分かりました。私もですが皆さん感心されていたと思います。それから、自然は遠くに行かなくてもいいということ。子供たちにとっては地域の中の小さな自然でも、すごくいろんな体験ができる場所です。村松氏は八ヶ岳にお住まいですが、八ヶ岳までいなくても、その辺の小さな「みどり」があれば、それだけでも全然違う。

新しい方向性への転機になるかなということも里やま関係の方が言ってました。最初からそういうイメージで作ってるんですけど、緑を良くするのではなくて「みどり」で暮らしとか、子供とか街を良くするっていうようなところが、共有できたのかなと思います。

それから、お母さんが割とこられていたので、託児のシステムをきちんとやれば、もっとお母さん達が来やすくなるのかなと感じました。

2) 第12期緑推進委員会テーマについて

事務局

それでは改めて議事の委員会テーマについて説明させていただきます。

資料1をご覧ください。

前回の委員会の内容をまとめたものでございます。

先に令和5年度の予算について報告させていただきます。

令和5年度は、みどりのプラットフォームの構築事業として、フォーラムの会場設置などの委託費、ポスターやチラシ等の印刷、参加者の報償費など、合計110万円。オープンフォレストin松戸関連として消耗品、ポスターなどの印刷代、委託料、報償費などで115万円を予算としておりますので今後の議論を進める上で、参考にしていただければと思います。

前回の委員会で、緑推進委員会と緑のサロン部会の役割が示されております。緑推進委員会は、一般に向けて全体的なプロモーションについて進めていく、みどりの質を広げる具体的なアウトプットの部分を担うことが示されております。

一方でサロン部会の方は、フォーラムをどうするか、勉強会をどうするか、色々なイベントとのタイアップなどをどうするかなどの具体的なコアな部分の検討を進めていくということに位置付けて示されております。

そこから前回の委員会の内容を整理してみました。委員会の内容については今後のテーマについて、それらの問題点や「みどり」を取り巻く現在の情報についてお話しがありましたので、それらを分けて3つの項目に整理してあります。

最初に委員会のテーマについてでございますが、提案が10個ほど出ております。その提案の内容は、方針的なテーマと具体的なものがございまして、それらを整理しております。

方針的なテーマと、思われるものが4つほどありました。

一つ目、基本計画に触れるきっかけを作る。

二つ目、基本計画で表現されている部分について、具体的に何かをする。

三つ目、松戸市を代表するような公園を魅力的に使ってもらう。

四つ目、いろいろなところに相乗りする、収益からもそれがわかるようにする。

などでございました。

また、具体的に提案がありましたのは

一つ目、森の動画のコンペをしたい。

二つ目、探求の時間のプログラムの作成と実験的な営業。

三つ目、松戸市のキャラクターをフリー素材として提供して動画でコンペを行う。

四つ目、私の好きな公園をテーマに動画を作成する。

五つ目、「暮らしとみどり」や「歴史とみどり」の見える化、マップ化する。

六つ目、活動団体の紹介動画をシリーズ化して作成する。

など、動画の作成やマップの作成、プログラムの作成など、具体的なテーマのご提案がございました。また、これらのテーマを取り巻く問題もいくつか挙げられていますので、ご紹介いたします。

一つ目、みどりの情報についてですが、得られる人が限られている。

二つ目、今後発展させる上で、市役所内のリソースがわからない。

三つ目、関わる人を増やすためには、みどりの枠から出ていくことが必要。

四つ目、みどりがたくさんあるのに宣伝されていない。緑がたくさんあるのに調べていない。

五つ目、参加者が消費型の楽しみ方をする傾向があり、みどりの活動に主体的にかかわらない。

などの問題が挙げられております。

問題として挙げられた多くが情報発信の難しさだと思われましたので、今後は問題解決に向けて具体的に進めていければと事務局の方では考えております。市役所内のリソースや、みどりの枠から出て行くという問題提起がございましたので、今回資料2、資料3の方に、市に関連するイベント、SNS、キャラクターなどを列記しておりますので、ご確認ください。

資料2と資料3について。

資料2の方は1年間の松戸市に関係のあるイベントを調べてます。もし、落ちてるものがあれば付け加えたいと思いますので、事務局にご連絡いただければと思います。表の見方は、左の方からイベント名、真ん中にその対象者、右側にそのイベントの内容とかを簡単にコメント入れてありますので、今後どこかとタイアップとか、どこかの中に入り込んでいくとかという議論をする際には、こちらの方を参考にさせていただければと思います。

資料3の方はSNSの一覧表となっています。こちらにはツイッター、インスタグラム、ラインを調べております。松戸市に関連する公式なツイッターと、あと市民の方が行ってる松戸市が公認していないツイッターがございますので、そちらはページを分けて記載しております。いろんな課がツイッターをやっている、右の方に参考にフォロワー数を記載しておりますので、今後ここに「みどり」の情報をどうやって流すか、そういう議論ができればと思います。

資料3の2ページ目には、松戸市以外のツイッターを3つほど記載しています。

ラインの方は、松戸市公式ラインということで、こちらの子育て情報サイトが子ども政策課の方で管理しているということです。こちらの方は時間があれば確認していただければと思いますが、ラインをつなげますと、子育て関係の情報とかカテゴリ別で自分の欲しい情報を登録できるので、それについて自動的にラインの方に流れてくるシステムとなっています。

あとフォロワー数は多くないですが、観光関係の部署がやっているインスタグラムがいくつかありました。

同じ所管から同じ内容でツイッター、インスタグラム、フェイスブックをやっているケースもあ

ったので、それぞれのフォロワー数を比較する表を作成しました。松戸の里やま関係として、松戸の森物語というのは里やまボランティアの方のアカウントになります。

一番最後が松戸市のキャラクターの一覧となります。

以上が、資料1、2、3の説明となります。

会長

今日の議論について、資料1にあるように緑推進委員会とサロン部会の役割を、どのように考えていけばいいのかということで、緑推進委員会は全体的なプロモーションについて考えていきましょうとなっている。サロン部会については、みどりの市民フォーラムをどうするか、勉強会をどうするか、というようなことが中心になっている。

みどりの市民フォーラムというのは、昔は市民フォーラムと言ってたかどうか分かりませんが、千葉大の卒論とかで松戸市を取り上げたものをいくつか会場で発表してもらって、市民の方にも来ていただいて会場ですりとりするというものを2、3年やっていましたが、なかなか進め方も難しいところもありまして、その後は開催されなくなっていたものです。それを緑の基本計画を策定する時に、園芸学部の戸定ヶ丘100年ホールを使わせていただいて、いろんなみどり関係の活動団体の方々に、パネル持ってきてもらったりプレゼンテーションしてもらったり、意見交換をしたりということをやりました。今度はそれを継続してやっていこうということだったんですが、ご承知の通りコロナの関係でなかなか進めることができませんでした。最近ではコロナも収まってきているので、このみどりの市民フォーラムを具体的にサロン部会で検討しながら進めていただくことになろうかと思えます。一応全体の枠組みの確認としてはそういうふうになっております。今日は、プロモーションをどうするかということを引き続き検討していきたい、ご意見をいただきたいということと、市民フォーラムについても議論を進めていきたい。あまり分けてしまうとややこしくなってしまうかもしれないので、あまり区分けしなくてもいいと思えます。例えば先に里山アワードの講演会の説明をしていただいたのは、市民フォーラムとかいろんな議論していく上で、あのような取り組みの意味とかを考える必要があるのでは、ご説明いただいたと思えますのでその辺を含めてまずは議論を進めていきたい。

サロン部会の方は市民フォーラムをやるということがある程度ははっきりしているので、議論しやすいと思えますが、緑推進委員会で全体的なプロモーションについて進めていくというのが結構ふわわとしてますので、この辺りをどういうふうに考えていけばいいのかということ、議論したいと思えます。

今回はSNSとかイベントとか、かなり細かい資料を出していただいて、フォロワー数まで調べていただきました。キャラクターもこんなにいたことに少し驚いています。この辺の感想からでも結構ですので、まずは自由にご意見いただければと思います。

委員

私の職場でもツイッター、フェイスブックをやっているんで、興味深く見しましたが、公式というのは行政の人がやっているものでしょうか。

事務局

公式となっているものが松戸市の各課が所管しているものになります。

委員

このインスタグラムなんかで、松戸市観光協会となっているものも行政が運営しているのですか。

事務局

観光協会は外郭団体ですので、にぎわい創造課が所管しています。

委員

その他は市民団体のようなものになりますか。

事務局

実際の顔が見えないので、どなたがやってるかわからないものです。ツイッターで検索して松戸市に関連する情報発信をしているようなところを洗い出しております。

委員

ツイッターやフェイスブックも、結構いろいろ考えて、みんな試行錯誤しながらやってると思いますが、完全に任されて自由に雑談もしてるようなところもあるし、いちいち内部で相談して、これを発信していいでしょうか、とやってるところもあるみたいです。やはり一度出しちゃうと不適切な表現だった時に引っ込みがつかないとか、コピペされちゃうとかあるので、やっぱりその辺のところで自由にやって楽しそうに見えるけど、結構大変なところもあるだろうと思います。もう一つ考えるのは、やっぱりメインの人は忙しくて、忙しい時に忙しいので一番ホットな画像が取れるところでは一番忙しかったりする。誰か係を作ってしまうとか、別途それだけ気にしてるようにした方がいい例もあります。

これは海外の学術団体例ですが、大学院生やオーバードクターみたいな元気のいい若い人に、ちょっとした報酬を渡して、年間幾つ発信しなさい。とかやっていたりします。このようにしないと、大現場にいて中心的なことを発信できる人は別のことが忙しいとかあるので色々考えることはあるだろうなと思いました。

会長

平岡委員のところでどうやっていますか。

委員

僕はほとんど雑談みたいなものがなくて、こういう本が出ましたとか、講演会あります、というのを僕が出してる。ほぼ自分の判断だけで出してますけどその代わりに、よもやま話はぜひぼぜ口で、誰でも出すだろうな、ということしか出してないです。

それなりにちゃんとした企業とかはポリシーを作っていて、間違えたらちゃんと素直に謝りなさいとか、大企業のSNSポリシーがネットに出てますけども、最低限の縛りみたいなものを守るようにはしてると思います。

会長

小谷委員のところは、結構フェイスブックとかを研究室で発信されてる印象はあるんですけど、どういう運営されてますか。

委員

今のメインはインスタグラムです。あれはもう担当する学生が毎年決まっていて、その子たちが上げてます。一応は僕もチェックして変なこと書いてないか、とか誤字脱字がないかを見ています。やはりインスタグラムとかになると、おじさん発信だと全然届かない。言葉の使い方とかも、あの子たちの言葉じゃないと全然見てもらえないです。投稿もすごい頻度で上げています。

委員

それは事前チェックじゃなくて、発信されたものをチェックしているのでしょうか。

委員

投稿してからじゃないと追いつかないですね。一応最低限の決まりとして、変な話しや肌の露出などはしないように気を使ってます。女子が多いので注意はしてますけれど、基本的には大体みんな守るので大学生ぐらいになれば問題ない感じです。

会長

先ほどポリシーって言われましたけど、何となくそれに近いものがあるって、当然それを逸脱しないように発信しなさいよ、という指導されてるってことですよ。

委員

だから活動は逐一報告するっていうのがゼミとかプロジェクトチームのブランディングだと伝えてあります。活動の翌日、遅くとも翌々日までには誰かが絶対アップする、と決めているみたいなので、重なるときは1日3個とか上がってると思います。

会長

行政ではそれぞれの課でそれぞれやっているのでしょうか。

事務局

残念ながら更新頻度が低いものもあります、もう何ヶ月とか、半年更新されてなかったりとか、おそらく始めた当初は結構熱があったものがフォロワー数だとか、そういうところで頻度が下がっていくのかなと、今回調べていて感じました。なかなか見てくれる方がいないと、発信していくのも難しいと感じます。あとは市役所で発信するとポリシーの関係で限られてしまうので、一般の方から見ると楽しさに欠けるのかなと思います。

会長

さっき平岡委員が発言したように、役所で直にやるっていうのはちょっとなかなか難しい気がします。

委員

うちも教務課がティックトックを立ち上げるのに僕のゼミの子たちに相談したんです。職員では出来なかったのが最初はうちの子たちが動画を作ってあげてましたが、結局もうそれもできなくなって止まっていると思います。学部っていう組織になっちゃうと、しょうがないのかなと思いますが、ルールを決めた上で専属のアルバイトさんにやってもらうとかでやらないと難しいんじゃないかなと思います。

会長

最近だと公園のマネジメントの目標設定の中で今みたいな情報をどうするかを目標設定してる自治体なんかも出てきている。その例だと自分たちがどれだけ発信するかじゃなく、周りにどれだけ反響あったかっていうところなんかが物差しになっています。行政で何かやっていくという話ではなくて、別のやり方を考えなきゃいけないし、別に市民の方が発信するのであれば反響があればそれでいいという形での運営も考えられる。

委員

みどりと花の課ホームページに、オープンフォレストのリンクがぶら下がっています。こういった形で色々な情報をリンクしておく、「ここに入れば色々な情報があるんだ。」となり、情報を取りやすくなる気がする。ただ、ページの管理方法や、外部サイトへの飛ばし方なんかは専門家に聞かないと分からないところです。

会長

今の若い人達はどうやって情報取ってるかという、ほぼほぼインスタグラムで取っていて、流れてくる情報の中から取捨選択して「これ行ってみようかな」とやっている。僕らの時は「みどり」に興味あってみどりと花の課とかのページにいて、そこにぶら下がってる情報を何かないかなって検索して見るようなスタンスだったと思いますが、多分今の若い人達はバーツと流れている情報から「あっ」と思ったものに引っかかるというような情報取り方をしているのかなと思います。

具体的な仕組みはよくわかりませんが、情報が流れてるっていう状態が大事なのかなと思います。いかがでしょう。

委員

うちの子たちはKPIを設定しています。フォロワー数を何人にするとかを考えていますが、個人がやってるわけじゃなく大学がやっているの、そんな楽しいものばかりじゃない。フォロワーはあまり増えませんが、月に4回のイベントに出たらQRコードを配って、理解してくれる人にフォローしてもらったり、毎年毎年それをやっています。

今の若い世代の情報はティックトックとインスタグラムで最初の数秒の動画だけで判断するので、そこでどう若い子に「みどり」をアピールするか。中高年についてはフェイスブックとかじっくりやっていけばいいと思いますが、最近40代もフェイスブックを見なくなってきたようなので、もう50代60代以上の人になってるみたいです。

委員

さっき小谷委員が、「おじさんが発信しても刺さらない」と発言していましたが、それはインスタグラムとかツイッターなんかのメディアじゃないってことになると思います。やり方が問題で、人気のあるメディアを使っても、その発信の仕方によって刺さらないと。何が違うか根本的部分が分からないですね。やっぱり動画とか画像を使うってことになるんでしょうか。

委員

そうだと思います。でもバズる動画というのは絶対あるんですが、それがなんだか僕らには分からない。

会長

ということは、ここで議論していても分からないかもしれない。世代によっても違うし、興味によっても違ってくるので、ターゲットによって正解となる発信の仕方や情報の作り方もかなり細かく分かれると思う。若い世代に向けたものなら学生とか、Z世代とかに作ってもらったり教えてもらったりしていかないと分かってこないかもしれない。

委員

柳井会長のおっしゃったように、それぞれの世代で公園の何を見てるかが本当に違うなと思います。幼稚園の近くにある公園では、そこに自転車を置いて親子が遊んでいくような状況で会話に「あそこの公園はトイレがある」「ボールで遊べる」ってというような、口コミみたいに広がるものと、小学生くらいの子供たちの中では地域ごとに公園に愛称がついていたりします。何を目的にして公園に行くか、というようなところも考えないと、ただただSNSで発信しても、自分の目的とマッチングしなかったら見ないし利用もしない。

松戸市のシティプロモーションの方で聞いた話ですが、市民公募で記事を書いてもらっているものでは、やはり記事を上げる責任があるので、上げる際の研修みたいなものが1、2回、と記事の書き方とかポイントみたいな研修がありました。

会長

情報の伝わり方とか受けとめ方は細分化されていると思いますし、確かにお母さん方の口コミが意外に重要なポイントになっていると思います。

委員

今回、ツイッターとかラインとかインスタグラムとか色々拾っていただけてますが、この辺りのSNSを使うのであれば、ターゲットは若い世代か子育て世代に絞っていいのかなと思います。

あとは紙媒体やフェイスブックだと中高齢の方も見ているので、そっちを使う感じでいいのかなと思います。先ほどお話ありましたけど何を発信するのもとても重要で、今回の松戸市みどりの基本計画の特徴は「生活の中のみどり」とか、「ライフスタイルとみどり」みたいなところが特徴的なみどりの基本計画なので、やはりそこを発信したいと思います。例えば「子供とみどり」ですとか「小学生がどうみどりと関わっている」とか、「高校生がどう関わってるか」「大学生がどうなのか」「70歳の方がどう関わってるか」、それぞれセグメントがあって、そういったもののショート動画みたいなものを作る。ほんとにリアルな話がいいと思います。じゃないと情報を取るインターフェースにならない。それを例えば10世代分をそろえてみるとかですね、「こういうふうに関わってますぐらいの感じ」で本当に1分くらいの動画をフェイスブックやツイッターなど、色々なもので流すといいと思う。うちの学生たちが小田原でやっている地域食堂（子供食堂）を、小田原市の広報ユーチューブで配信されていて、それを結構皆さん見ていただいている。松戸市にそのようなものはありますか。

事務局

「まっちゃんねる」というものがあります。

委員

それは定期的に、月に5本とかそれぐらいの投稿をしているのでしょうか。

事務局

頻度は不明ですが、何かあるとそこで広報しています。

委員

ちゃんと取材の人が入って、それなりに編集してやってるんですね。そうするとやっぱ綺麗に出るじゃないですか。プロの人や、うちの子たちもこんな上手く編集してくれたんだと思います。ユーチューブは多世代が見てるので、そこにどうリーチするか、リーチさせるのはインスタとかツイッターかもしれない。属人的なところで、みどりと関わりみたいなものはテーマにすべきじゃないのかなと思います。

会長

議論の時間がなかなか短いですが、推進委員会として1年間で全体のプロモーションをどう考えるか、こういう議論をしていくと、ずっと議論のままになってしまう気がします。せっかくこのメンバーでやっていますので、あと1年で「この期はこんなことやった」と言えるような、次に繋がる実績を上げたい。みどりの基本計画の策定があって、その中で「みどりと暮らし」が松戸のみどりの基本計画の特徴になっています。それをどうプロモーションしていくかという流れの中で、プロモーションの話をずっとしてきたわけですけど、議論が議論に終わってしまうのではなく、残り1年で何かやってみるのがいいと思いますし、それがこの緑推進委員会のいいところです。普通の審議会とかだと、諮問事項に答申するだけで何かやることはないですが、緑推進委員会は、里山ボランティア入門講座、花壇づくり、市民憲章など、色々な動きをしながら試して作ってき

て、役所の方にも取り上げていただいて、施策の中に位置付けてもらって広がってきている経緯がございます。このプロモーションについても、次の動きに繋がるような成果となるよう考えたいです。

この期が終わるときに、松戸市への提言書を出すことになりますが、その提言書を作る上でプロモーションの基本的な考え方とか、基本方針を考える必要があります。形として、「こういう基本方針でやりましょう」や「やってはどうか」と明文化されたものになります。それを具体化するためのものとして「こういうやり方でここにこうする」というように実際動ける実施項目であったり、社会実験のような試行を試してみたりします。例えば、先ほど話しが出た10世代分の動画を取ってきて、どことどう協力して作ったかとかを記録しながら、10世代分の人達の声を拾って「暮らしとみどり」のようなテーマで作ってみる。そのくらいが、今期の推進委員会で出来ることになるかなと思います。

まとめますと、セグメントの設定、プロモーションの基本的考え、コンセプト、基本方針に関してどういう考え方をとっていくか。それをプロモーションするための、「こんなことが実施できればいいよね」というようなプロジェクトのようなものを上げていく。その中の一つとして、例えば小谷委員の発言にあったような、ショートビデオを何らかの形で作っていく。そのような進め方がいいのかなと思います。

委員

ショートビデオというのは例えばユーチューブ的なものでしょうか。

委員

ビデオでもいいですが、動画ですね。動画を持っておけば配信はユーチューブ等のメディアがいっぱいあると思います。

委員

シティプロモーションというと、その時々松戸市の魅力的なものを発信する場でしょうか。昨日ネットで見ましたら、シティプロモーションの中で、専大松戸の野球の話をしていました。例えば、このような「みどり」に関するメッセージを新しく作った時に、そういうところで情報発信していただいて、それからぶら下がって先ほどのお話しにあったような、実際の詳しい動画を見れるというような仕掛けづくりが可能かどうか。

事務局

資料の方をまとめている時にも「みどり」だけではなく、その外側と繋がるとか、その辺が大切だというお話しがありました。松戸市にはシティプロモーション担当室という部署がございますが、そちらのホームページには戸定邸とか、そういった松戸市を代表するようなところについて非常に力を入れて宣伝していただいているので、シティプロモーションがどんな基準で動いているとか、こちらから申し入れて動いてくれるかとか分からないので、お話しを聞きたいなと思っております。今後そういう仕組みを構築するのは同じ市役所内なので十分可能だと考えております。

委員

シティプロモーション担当室と連動してやるのもいいと思います。シティプロモーションの関係で藤沢の大学の学生が、スポーツ、子育て、観光をテーマに自分たちで動画を作っています。うちは子育てをテーマにやっていて、成果物が今はデジタルサイネージに流れています。来年は「みどり」や「環境」もやるということで、うちにやってくれとの話しが来ています。シティプロモーションの方から、そういうふう配信してやっていくのもいいのかもしれないです。

もしかすると松戸市でも色々な動画撮影とかやっているのかもしれないですし、難しく考えないでやったほうがいいかもしれない。既存のものは考えないでアカウントも取ってとりあえず作ってみる。大事なのは情報の受け手が若い人だということだと思います。出演は別に僕らのようなおじさんでもいいと思いますが、角度とかカットとか編集なんかはよくわかんないので、それはやってもらうのが大事だと思います。

会長

事前の打ち合わせの時にも、シティプロモーションの部署の人とか、子育ての部署の人とか、毎回私たちが繋がりたい部署の方をお呼びして、「何やっているか」最初30分ぐらいここで話してもらったりするのもいいかなと考えていました。今回は急な話しで間に合わなかったですが、そういう提案はしています。どうしてもここだけで考えていると広がっていかないので、役所の中の話とか、何をやっているかとか、他の分野の動向を知る上では、例えば次の緑推進委員会にシティプロモーションの部署の人に来てもらって、今どんなことやっているか話してもらったりとか、そこで意見交換とか、そういった機会ができればいいなと思います。まずは事務局から、そこが何をやっているのかご理解いただいた上で、ここで話していただけたらと思います。これは要望として、お願いしておきたいと思います。

全体の方向性としては提言書の提言に向けて基本的なプロモーションを考えていく。その考え方は、先ほどから話しに出ている動画のような実際にこんなことができるんじゃないかというような実施できる項目づくりをする。そしてそれを実際にやるよということも含めて検討する。

資料1を見ていただくと令和5年度の予算が書いてあります。今回、我々に関係しそうな予算がこれだけあります、ということを出していただいています。なので、例えば今のプラットフォーム構築事業の中の報償費のところ、学生さんにお手伝いいただいたり、業者さんに委託するといった可能性はゼロではないかと思いますので、ここで全部作るわけではないということも頭に入れて進めていければと思います。

議事4) 緑と花のフェスティバル2023のへの参加について

会長

緑と花のフェスティバル2023のへの参加についてということでございますが、事務局から説明をお願いします。

事務局

資料をご覧ください。今年も緑と花のフェスティバルを開催する予定でございます。

開催日程につきましては、4月29日、午前9時30分より午後3時まで。

場所は21世紀の森と広場の集いの広場で開催します。

参加見込み数は28団体。

飲食ブースは13団体と、去年と同等か少し、規模は大きくなっております。

詳細については田辺事務局長よりお願いします。

みどりと花の基金

緑と花のフェスティバル2023ということで、今年のテーマは、松戸みどりの市民憲章から引用いたしまして、みどりと暮らす豊かさを大切にしようというテーマで開催します。

なお令和5年度に松戸市が市制施行80周年を迎えることから、これを記念する行事として位置付けられておりますので、チラシなどには、そういったロゴが入ると思います。

開催日時等については説明のありました通りです。昨年の4月については、まだ新型コロナの影響が色々ありましたので、登録制とさせていただきましたが、令和5年については登録なしでも参加できるように進めています。

出展参加者についてはマスク着用とし、フェスティバルに来られる方につきましては、この3月13日より個人の判断ということなので、感染症対策についてご協力をお願いするというような案内になっています。ただワークショップ等の直接市民の皆さんと触れ合うようなものや、ブースの滞在時間が15分以上、1メートル以内のようなものへの参加者には感染症対策をお願いする予定です。

今年も去年と同様にフェスティバルの開催を予定しておりますので、よろしく申し上げます。

事務局

緑推進委員会は昨年、参加しておりまして、緑のスタンプラリーを開催しております。

今回は少し趣向を変えて、参加者が直接木材に触れたり、においを感じたりするプログラムを考えていますので、事務局の方では参加したいと考えております。

また、お手伝いについてはみどりの行動会議の皆様にも例年通り応援を依頼したいと考えております。

具体的なプログラムについて簡単に説明させていただきます。

事務局

幹、枝、建材等の木に触れて違いを感じていただこうと考えています。

一般的な建築材としてスギ、ヒノキ、においが強いクスノキ、ゲッケイジュ、固い材ではケヤキや輸入材のイタウバが入手できるかなというところです。

そういったものに関して、紙ヤスリで削って匂いを感じてもらったりとか、小さなドリルで穴を開けて木材の固さを感じてもらうことで、色々な特徴があることを肌で感じてもらえたらなと考えています。

会長

段取りしていただいているということですが、それに緑推進委員会、緑の行動会議として当日のお手伝いになります。当日はお手伝いするという形で、参加するということについていかがでしょう。可能な限り委員の皆さんにも参加していただければと思います。集合時間や細かい段取りとかの諸々は、最終確定したら事務局からご連絡いただきたいと思います。

実際、里やまの方は里やまのブースがあって掛け持ちになったりとか、花壇もそうですし、私のところもエディブルウェイや学生の関係とかとの掛け持ちになる。そういう方もいらっしゃると思いますが、参加するということにさせていただきたいと思います。

事務局

再度、日時については4月29日土曜日の午前9時からですので、委員の皆様におかれましてはぜひ参加の方をお願いしたいと思います。

またプログラムへの参加者については、景品を用意しようと考えておりますので、もし委員の皆様で何か景品として、ご提供いただけるものがあれば、事務局でお預かりします。また、景品の準備として、ご厚志についてもお預かりいたしますので、よろしく願いいたします。

フェスティバルについては以上です。

議事5) オープンフォレストについて

会長

オープンフォレストについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

資料5になります。第11回オープンフォレスト5月13日土曜日から21日日曜日の9日間を予定しております。

事務局

資料6になります。日程は5月13日土曜日から21日日曜日となります。

今年も去年と同様に21世紀の森と広場で展示していた、森の文化祭等を行わず、主に森の公開を予定しています。

今回は令和5年3月に協定を結んで活動を始める森を含めて19箇所の森の公開を予定しています。

後援依頼先についてですが、今回の後援については、里やま連絡会より「緑推進委員会」と「松戸みどりと花の基金」をお願いすることを聞いています。オープンフォレストin松戸実行委員会の実行委員長と松戸市から後援をお願いしたいと存じます。

以上が説明となります。こちらについては承認事項となりますので、よろしく願いいたします。

会長

オープンフォレストin松戸に関して緑推進委員会として、後援をするということでもよろしいでしょうか。

後援ということですので、「こういうのやってるよ」とかですね、ぜひ広めていただきたいと思いますし、お知り合いを連れて来ていただくとか、委員会としてそういうことを中心に後援させていただければと思います。

委員

コロナ前はうちの職場も後援だったんですけども、コロナで開催も見通せないことから今回も名前がないですが、来年以降に必要があれば、おっしゃっていただければと思います。

事務局

ありがとうございます。このことについてはオープンフォレストin松戸実行委員会に伝えさせていただきます。

会長

では、こちらの方は承認ということでもいいか。

——承認——

後援を承認させていただきます。

今回は新しく活動を始めるオリンポスの山も公開される。委員の方も是非現地に足を運んでください。

こちらは松戸市の広報にも5月1日号で掲載されます。

会長

最後に事務局から連絡事項をお願いします。

事務局

街づくり部より福田部長及び齋藤審議監が4月より、それぞれ異動が決まっております。

本日、一言ごあいさつをいただきたいと思っております。

福田部長につきましては、挨拶を預かっておりますので、三末課長に代読をお願いしております。

事務局

3月末で退任される福田街づくり部長より、委員の皆様へ退任のごあいさつをお預かりしておりますので、代読させていただきます。

緑推進委員会の皆様におかれましては、日頃より本市のみどり行政に対しまして、多大なご理解ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

特に昨年春に公表した松戸市みどりの基本計画の策定にあたりましては、松戸らしさが溢れる夢のある計画の策定作業にご尽力をいただきましたこと、大変感謝しております。

私は3月末をもちまして退任となりますが、緑推進委員会の皆様におかれましては、引き続き本市のみどり行政にお力添えをいただきたく、何卒お願い申し上げます。

皆様の今後のご健康とますますのご活躍を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。
ありがとうございました。
以上でございます。

街づくり部：斎藤審議監

街づくり部審議監の斎藤でございます。

私は2年前に国土交通省より、出向という形で松戸市に来させていただきました。

緑関係を担当させていただいたわけですが、その中に松戸市みどりの基本計画の策定がありました。

そして今後、この計画をどう出していくか、プロモーションについて議論いただきましたけども、今後この計画が松戸市のみどりのバイブルとなって、今まで以上にみどりの環境が整うということを大変楽しみに、見守っていきたいなと思っています。

実は私も20数年来松戸市民ですので、異動はいたしますけれども、引き続き1市民としてみどり多い場所で豊かに暮らしていけたらなと思っていますので、そのためにも引き続き委員の皆さんには、ご尽力いただければと思っています。

また、国土交通省に戻るわけですが、新しい所属は都市安全課というところに参ります。

何をやっているかという、熱海で盛土の災害がありましたけれども、この5月に盛土規制法という法律が施行されますが、その法令の実務を所管する部署になります。

あとは災害の関係でございます。公園とか下水道とかの都市施設、これが地震とか大雨の災害で被害を受けた場合の査定をしたり、その復旧にあたるようなセクションになります。

そういった意味で引き続き何かあった時は松戸市とご縁があるんですけども、あまり縁がない方がいい部署というところがございます。

そういうところに異動いたしますが、松戸市のみどりを応援しております。2年間大変ありがとうございました。

事務局

第12期緑推進委員会の市民委員追加募集につきましては、広報まつど2月15日号で募集をいたしました。「私の好きな松戸のみどり」として1000文字程度のレポートで募集したところ、5名の応募をいただきました。選考につきましては、この後の11時30分からの選考会で最大3名を選考します。次回の委員会は、5月25日(木)10:00を予定しております。

会長

以上で本日の委員会を終了します。